

豊中・サンマテオ姉妹都市

提携ニュース

2021

TOYONAKA & SAN MATEO SISTER CITY EXCHANGE PROGRAM

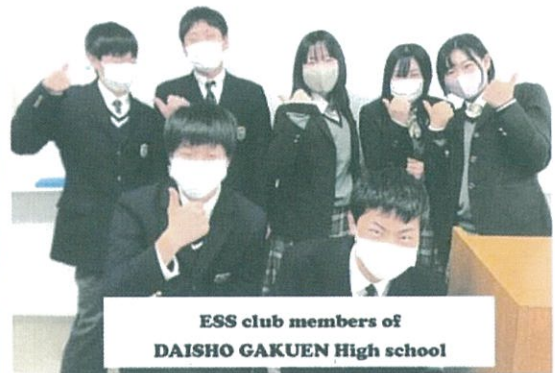
Students Online Exchange vol.1

DATE: 2021/03/16 08:00~ in Japan

2021/03/15 16:00~ PST in California



San Mateo Student Ambassadors



ESS club members of
DAISHO GAKUEN High school

Participants: Members of ESS club of DAISHO GAKUEN High school
San Mateo student ambassadors and more!

Contents:

- *introduce oneself and Q&A
- * Speech Presentation by ESS club members etc.
- *introduction of City of San Mateo by Ambassadors Discussion and Q&A



<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/>



<http://www.cityofsanmateo.org/>

豊中・サンマテオ姉妹都市協会

Sister City Association of Toyonaka - San Mateo

ONLINE EXCHANGE

オンライン交流会レポート



新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、令和2年（2020年）に予定していた相互訪問等の交流事業は延期となりました。事業を再開するまでの交流事業として、初めての試みとなるZOOM（ネットミーティングアプリ）を使用したオンライン交流会を開催しました。

学校からの
課題が
山積みだよ～

家の前の公園で
リラックス！

運動不足だから
トレーニングを
しているわ！

受験に向けて
勉強しなきゃ！

パンを
焼いたよ！

学生親善使節たちのオンライン交流会 ～まちの様子は？ステイホームの過ごし方は？～



学校の休校が続いている豊中市の姉妹都市親善使節と、同じく休校中のサンマテオ市の学生親善使節の交流の場として、2020年5月～8月に渡って計4回のFRIENDS CHAT（オンライン交流会）を開催しました。

新型コロナウイルスの影響についてサンマテオ市では、自宅から数キロ以内の買い物や健康維持のための散歩は許可されている状態とのこと。当時感染者数が爆発的に増加していたアメリカでは、オンライン授業の実施は進んでいる一方、学校の再開には時間を要しそうな印象でした。市役所も職員はほとんどテレワークを実施しており、市民はいろいろな手続きをすべてオンラインで行っていたそうです。

一方6月から再開された日本の学校について聞かれた豊中市の親善使節の皆さんは、「午前と午後の交代制や1日おきに半分ずつ生徒が登校していること」、「授業が終わるたびに手洗いをしていること」、「席の間隔を空けていること」などを伝えました。

コロナ禍において今後どのような交流事業ができるか、事態が収束したら一番先にやりたいことは何かについても意見を交換し、明るい未来に想いを馳せながら引き続き健康に過ごせるようお互いを励まし合いました。

高校生たちのオンライン交流会 ～大商学園高等学校 ESS クラブとサンマテオ市をつなげよう～

2021年3月16日に実施したオンライン交流会には、豊中市から大商学園高等学校の生徒7名、サンマテオ市から親善使節の3名とサンマテオ姉妹都市協会会員3名が参加してくれました。



参加者全員の自己紹介やQ&Aから始まったこの交流会では、大商学園高等学校の生徒3人が英語でのスピーチを披露し、それに対する質問に英語で答える時間をもちました。



身振り手振りを交えながら交流する大商学園の生徒たち（上）
サンマテオ学生親善使節のケイトリン・リーガンさん、ロシュニー・サフさん、イアン・コウさん（下左から）



初めての経験で少なからず緊張していた様子の生徒たちでしたが、交流会が終わるころには「今後も参加を続けていきたい!」という声を聞いたことが何よりも成果でした。ネイティブスピーカーと話すという挑戦が、今後英語を学ぶことへの動機のひとつになり、これをきっかけにサンマテオ市に対して親近感を持ってもらえると思います。

計5回開催されたオンライン交流会では、自宅にいながらも国際的な視点を持ってひとつの問題についての意見を共有することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。「とはいえ、やはり実際に会いたいね!」と、一刻も早い事態の収束を願いながら再会を約束しました。

Our Website
～ホームページ紹介～

豊中・サンマテオ姉妹都市協会公式のホームページを開設しました！
同時に、フェイスブックページも開設！サンマテオ側が運営しているフェイスブックページを共同管理運営させてもらえることになりました。

豊中・サンマテオ姉妹都市協会公式ホームページ

当協会の活動内容を広く知ってもらうとともに、
交流事業に参加を希望される人に情報をお届けします。

<https://toyonaka-sanmateo-sca.localinfo.jp/>



サンマテオ豊中姉妹都市協会 Facebook

両市が共同管理することで、より多くの市民の皆さんの交流の場となることを期待しています。いいね！やコメントで盛り上げてください！

San Mateo Toyonaka Sister City Association

@smsistercity

<https://www.facebook.com/smsistercity>



Today's San Mateo
～サンマテオのいま～

サンマテオ市のダウンタウン

コロナ禍において営業を自粛している飲食店が、テラス席営業を再開できるように、道路や駐車スペースを開放する取り組みを行っています。空の色がオレンジなのは、2020年9月にカリフォルニアで猛威を振った山火事の影響だそう。



ポニーラ副市長、サンマテオ郡よりサステナブル賞を受賞

サンマテオ市のリック・ポニーラ副市長が2021年5月、Sustainable San Mateo County (SSMC) より Sustainability Awards (優れた“持続可能な取り組み”をした人に贈られる賞)を受賞されました。ポニーラ副市長は、クリーンで再生可能なエネルギー供給のため、“ペニンシュラクリーンエネルギー”の形成に尽力するなど、エネルギー効率の良い住宅やクリーンで協調的な交通機関を作ることに焦点を当ててこれまで活動してこられました。その協力的かつ精力的な社会への献身が実を結んだと言えるでしょう。



ミスターサンマテオ 桑村 三十三さんを偲んで



2019年少年野球親善交流40周年セレモニー時の桑村さん(前列左から2人目)

サンマテオ市との市民間交流に40年以上の長きに渡り尽力された、桑村三十三さんが2020年7月、亡くなりました。桑村さんは豊中市体育連盟の会長を務められたことでもよく知られた方であり、1979年の第1回少年野球親善交流の実施に貢献されました。以来、多くのサンマテオ市民との間に生まれた絆、つながりを大切に今日まで交流の礎をつないでくださいました。

なかでも、事業発足時にサンマテオ市に勤務し、姉妹都市交流事業を担当したジョージ・ムサンテさんとは、自他ともに認める無二の友人であり、2019年に豊中市で開催された少年野球親善交流40周年記念セレモニーでは、2人揃って豊中市から感謝状を授与されました。これまでのお互いの功労を称えあい、肩を抱き合って再会を喜んだ2人でした。惜しまれつつ、永眠された桑村さんへの追悼のお手紙を、ジョージ・ムサンテさんが寄せてくださいましたので次ページにて原文と共に紹介します。



拡声器を片手に陣頭指揮をとる桑村さん(1980年代)

40周年記念式典で長内繁樹市長より感謝状を受ける桑村さんとムサンテさん(2019年)



少年野球の交流事業には欠かせない2人の存在

どの年代の写真にも2人の絆の強さが表れているよう

41 年間の友情

桑村三十三さんの姉妹都市交流における功績は、殿堂入りと呼ぶにふさわしいものです。彼のサポートと献身がなければ親善野球交流が今日あるような成功を収められなかったことでしょう。

1979年、私はサンマテオ市公園・レクリエーション部で勤務しており、青少年と成人のためのスポーツ活動を調整する陸上競技部門の管理者でした。その頃の私は、豊中市の姉妹都市提携のことは聞いていましたが事業に関わったことはありませんでした。

その年の7月、豊中市から少年野球連盟創設10周年の記念事業として、サンマテオ市に少年野球の選手団を派遣したいとの通知を受け、私の部署が少年野球チームのサンマテオ市滞在中の親善試合と交流事業の計画を担当することになったのです。これまでの経験にない大仕事に着手することになりましたが、遠い国から訪問される皆さんにとって楽しくて実りある体験を提供したいと思っていました。

受入れ当日、空港で野球チームを出迎えた時の興奮と緊張を今も忘れられません。この時初めて桑村三十三さんにお会いしたのです。

彼は決して大柄な人ではありませんでしたが、彼がこのチームの責任者であることは容易にわかりました。ほかの引率者や少年たちが桑村さんの指示に従っている様子から、彼らがどれほど桑村さんを「団長」として尊敬しているかを見てとることができました。

それからの1週間で、桑村さんの豊中少年野球プログラムにける使命感と情熱、そしてサンマテオの少年野球チームとの継続的な交流への強い思いを知るようになるのです。

滞在期間も残りわずかとなり、すべての交流事業を終える頃には、誰もがこの少年野球親善交流は、今後の姉妹都市の絆を深める原動力になると手応えを感じていたように思います。

1981年、私は幸運にも第1回野球使節団の一員として豊中を訪れる機会を得ました。新幹線で新大阪駅に到着して、まず目に留まった人物が桑村さんでした。ここでも、団長としての彼の笑顔と熱烈な歓迎ぶりは際立っていました。出迎えてくれたメンバーの歓迎を肌で感じ、これまでサンマテオ市民の誰もが夢にも描けなかった経験が始まるのだと、胸を躍らせたものでした。

その旅で最も忘れがたいのが、使節団の成人メンバーが桑村さんのお宅の食事に招かれた夜のことです。私たちの友情が確かなものになったのは、その時だったという気がします。通訳なしでは会話もできないはずなのに、互いが特別な絆で結ばれているとわかりました。その瞬間、私たちは両市間に育まれた確かな絆を誇らしく感じていました。1979年と1981年に実行した、この最初の2回の野球交流を礎に、両市の親善関係は、それから発展を続け、さらに多くのプログラムが生まれることになると確信していたのです。

1979年以降、20回に及ぶ少年野球交流と、1回のソフトボール交流が行われました。それは400人を超える選手、何百人もの引率者、何百ものホストファミリーがこのプログラムに関わってきたことを意味します。交流を通して経験する友好関係と異文化理解は人生を変えるほどの影響力を持ちます。そしてそれを40年に渡り支えてきたもののひとつが、桑村三十三さんの貢献とサポートです。1979年の第1回から、直近の2019年の交流事業まで、そこにはいつも彼の存在がありました。

彼を大切な友人と呼べる関係が続けて来たことは私の誇りです。

サンマテオの人々の心の中には、特別な存在として彼はいつまでも生き続けることでしょう。

2021年4月 ジョージ・ムサンテ

41 years of Friendship

Mitozo Kuwamura belongs in the Sister City Hall of Fame. Without his support and efforts to make the Goodwill Baseball Exchanges a reality we would not have achieved the success that we have today.

In 1979 the City of Toyonaka and the City of San Mateo had already been Sister Cities for 16 years. During that time several citizens from each city had visited their Sister City and a variety of items had been exchanged between the two cities. In 1965 San Mateo presented Toyonaka a replica of the "El Camino Bell" which is still on display outside Toyonaka City Hall. In 1965 Mayor Shimomura's daughter, Takako, came to live in San Mateo and attended San Mateo High School. In 1966 Toyonaka donated several items to be placed in the new Tea Garden in San Mateo's Central Park and there were exchanges of art between students of each city that were displayed in the libraries. A strong bond was beginning to develop between the two cities.

In 1979 I was working for the San Mateo Park and Recreation Department. I was a supervisor in the Athletics Division coordinating youth and adult sports activities. I had heard about the Sister City relationship but never was involved in any of the activities. In July of 1979 we were notified that Toyonaka wanted to send a baseball team to San Mateo to celebrate the 10th Anniversary of the Boys Baseball Association and that our division was being assigned the responsibility of planning all their baseball games and social activities while the group was in San Mateo. We had never done anything like this before and hoped that we would be able to provide our guests a fun and rewarding experience.

I will never forget how excited and nervous I was as we met the Toyonaka group at the airport. This was the first time I had the honor of meeting Mr. Mitozo Kuwamura.

Although he was not the largest man in the group it was easy to see that he was the man in charge. As the group assembled in the airport, I could see how the other adults and the young boys responded to his direction and respected him as their "Group Leader". During that week I was able to see the commitment and passion Mr. Kuwamura had for the Toyonaka Boys Baseball program and for his strong desire to establish an ongoing exchange with the boys baseball programs in San Mateo.

By the end of the week we knew that the baseball exchange program was going to become the driving force of the Sister City relationship between our two communities.

In 1981 I was fortunate to be a member of the first baseball group to travel to Toyonaka. As we arrived at the Shin Osaka Bullet Train station one of the first people to get my attention was Mr. Kuwamura. His smile and enthusiastic reception once again made him stand out as one of the leaders of the group. He immediately made us feel welcome and all those greeting us made it clear that we were about to experience something that no other resident of San Mateo had ever dreamed of.

One of the most memorable moments of that trip for me was a night when the adults of the group were invited to Mr. Kuwamura's home for dinner. It was that night that I feel our friendship was solidified. Even though we could not communicate without an interpreter, we knew that we had a special bond. We were proud of what began between our two cities that week. We knew that the goodwill established as a result of those first two baseball exchanges would continue to grow and more programs would be created because of what was started in 1979 and 1981.

There have been 20 Goodwill Baseball Exchanges and 1 Goodwill Softball Exchange since 1979. Over 400 players, plus hundreds of adult chaperones and most importantly hundreds of host families have benefited from these programs. The goodwill and cultural understanding that has been gained because of these exchanges is life changing. One of the constant factors in all of our exchanges is the input and support of Mitozo Kuwamura. From that first exchange in 1979 through the most recent exchange in 2019, he was there.

I am very proud to have been able to call him my good friend. He will be missed by all. He will always have a special place in the hearts of the people of San Mateo.

April.2021 George Musante



新市長はエリック・ロドリゲスさん

2020年12月にサンマテオ市議会の改選があり、
新市長はEric Rodriguezさんに決定しました。



市長：Eric Rodriguez



副市長：Rick Bonilla



議員：Joe Goethals



議員：Amourence Lee



議員：Diane Papan

事務局メンバー変更のお知らせ

令和3年度より、新たにこちらのメンバーで当協会事務局を担当することになりました。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

(左下:山田、左上:中村、中央:マチカネくん、右:小井手)



2021年度事業計画

- ・ オンライン交流会の開催（3回程度）
 - ・ 第50回高校生英語弁論大会の開催（2022年1月29日予定）
 - ・ 広報活動の推進
 - ・ 姉妹都市提携ニュース2021（第51号）の発行
- その他協会の目的達成のために必要な活動

提携ニュース第51号 令和3年（2021年）5月発行
豊中・サンマテオ姉妹都市協会（事務局：豊中市 都市活力部 魅力文化創造課 内）

TEL：(06) 6858-2863 FAX：(06) 6858-3864

E-mail：scat@city.toyonaka.osaka.jp